

## 単元名 器械運動(鉄棒運動)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 鉄棒運動では、その行い方を理解するとともに、支持系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができる。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり場や器械・器具の安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

05100203\_001

【準備等】鉄棒、ビデオ、補助具、技の連続図、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 鉄棒運動の学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方を知る。</li> <li>★新しい技を身に付け、繰り返したり組み合わせたりして回ろう</li> <li>○学習カードや資料の使い方を知る。</li> <li>○マナーや安全な運動の仕方について知る。</li> <li>○グループを編成する。</li> <li>○鉄棒運動に関連した体ほぐしの運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・足抜き回り、前回り下り競争、両膝掛け振り、こうもり振り、布団干しから正面支持など</li> </ul> </li> <li>○試しの運動をし、課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・膝掛け上がり、逆上がり、前方（後方）支持回転、前方（後方）片膝掛け回転、転向前下り、踏み越し下り、こうもり振り下り（両膝掛け振動下り）など</li> </ul> </li> </ul> <p>2～4 鉄棒運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体ほぐしの運動をする。</li> <li>○本時の課題や練習方法を確認する。</li> <li>○いろいろな場で、基本的な技の練習をしたり、できる技を繰り返したり、組み合わせたりする。</li> </ul> <p>○技のステップに応じた練習の場で、発展技や新しい技に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助者を付けて、補助具を付けて</li> <li>・（発展技）もも掛け上がり</li> </ul> <p>○反省し、まとめるをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できばえ、態度、次時の課題の把握など</li> </ul> <p>5 発表の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体ほぐしの運動をする。</li> </ul> <p>○演技種目の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○反省し、まとめるをする。</li> </ul> <p>6 発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体ほぐしの運動と演技種目の練習をする。</li> <li>○発表をする。</li> <li>○単元のまとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオや資料などを利用し、技の種類や組み合わせ方を知らせ、学習意欲を高める。</li> <li>・2人1組で1グループを作る。</li> <li>・易しい遊びやゲームなどを取り入れ、回転感覚や支持感覚、逆さ感覚などを体験させる。</li> <li>・学習カードにできる技をチェックさせ、次時の課題をつかませる。</li> <li>・学習カードには技の組み合わせ方も例示しておく。</li> <li>・技に応じて、場を設定する。</li> <li>・易しい場から段階的に取り組めるようにする</li> <li>・友達と見合い、教え合えるようにする。</li> <li>・自己の能力に適した課題に取り組んでいるかを確認する。</li> <li>・場や器械・器具の安全に配慮させる。</li> <li>・練習を工夫して行えるようにする。</li> <li>・2人1組で互いの課題に合った練習の場で協力し合って練習させる。</li> <li>【評】2人で協力し合って練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>【評】自分に合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</li> <li>・発表する鉄棒に補助具を置いた易しい場を用意し、完全なできばえでなくてもできたことを認め、発表できるようにする。</li> <li>・発表は、友達と合わせたシンクロ技として行わせてもよい。</li> <li>・単元のまとめとして発表させる。</li> <li>・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。</li> <li>【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul>

## 【備 考】

鉄棒運動は、遊びの中での腕支持や逆さ感覚づくりが大切である。体ほぐしの運動で易しい遊びやゲームを行い、楽しみながら回転感覚や支持感覚、逆さ感覚を身に付けることができるようにする。本単元では、第1時～第4時の学習で今できる上り技、回り技、下り技の繰り返しや組み合わせをしたり、もう少しでできそうな技に挑戦したりしていく。児童が運動の楽しさや喜びに触れることができるように、それぞれの技のステップに応じた場を設置し、易しい場や条件でできたことを認め、新たな挑戦課題へと段階的に取り組めるようにする。

<運動が苦手な児童への配慮の例>

・逆上がりが苦手な児童には、体を鉄棒に引きつける運動に取り組んだり、補助や補助具を利用して足を振り上げながら後方回転をしたりして、体を上昇させながら鉄棒に引きつけ回転する動きが身に付くようにするなどの配慮をする。